Shinshu University Institutional Repository SOAR-IR

追悼　青木千代吉先生

著者	馬瀬 良雄
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 8: 1-3(1996)
発行年月日	1996-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022403

(C) 1996 the Author.

追悼　青木千代吉先生

馬瀬良雄

６月１０日朝１０時頃、勤務先の研究室の電話のベルが鳴って、受話器を取ると、本会の理事であられた青木千代吉先生の御子息誠之先生からでありました。何事かと思う私に伝えられたのは先生の御訃報でした。

しばらくのあいだ呆然としておりました。先生がこんな早くお亡くなりになるはずがないという思いが一方にあり、また、先生からは計り知れない御恩義を受けながら、何のお報いもすることなく今日に至ったからであります。振り返ってみますと、幾つかの思いが心を過ります。

私事にわたりますが、私が方言研究を行なうに至った大きな動機の一つとなったものが、先生の若き日の御著書『信州方言読本　語法篇』（信濃教育会，昭23）『信州方言読本　発音篇』（信濃教育会，昭26）でありました。両書は啓蒙的に書かれていますが、信州全域の方言についてこれだけ精緻に書かれたものは、あとにも先にも出ておりません。信州方言の歴史的名著であります。私は両書によって方言研究のおもしろさと奥深さを知り、これが大きなきっかけとなりこの道に入りました。

先生は発音・語法の御研究に続き、語彙にも深い関心を示され、その御研究の一端を『下水内の方言』（飯水教育会、昭５１）としてまとめられました。この書によってうつろい滅びようとしていた千曲川下流域のこの地方の方言は、植物図鑑の花のように、今、私どもの目の前に整理された形で咲き匂っております。

先生は信州方言について、発音・語法・語彙と研究をなされたあと、方言談話語の研究へと入っていかれます。折しも文化庁の「方言談話語緊急調査」が長野県で行なわれました。これは、県下５地点における１年１０時間３カ年の方言談話語の録音資料作成と、その文字化という過酷なものでありました。先生は御自身の担当である長野市松代を終えられた後、木曾開田村や信越国境秋山郷など、他の地点担当者で作業の遅れているところにも率先して行かれ、録音資料作成と文字化資料作成に没頭されました。その成果は『長野県方言緊急調査報告書』（長野県教育委員会、昭６１）として２巻のテープ付きで刊行されました。方言談話

資料として大変貴重なものであります。

先生の御論述はお人柄ゆえに、決してはったり的なところがありません。常に御自分の目で耳で確かめられたことを、抑制された筆遣いでお書きになっていらっしゃいます。

先生は教育と研究を見事に両立させたうえ、さらに、広くことばに関心のある人たちの研究会である「長野県ことばの会」を、私どももお手伝い致しましたが、昭和５４年に設立され、理事としてその育成、発展に努力され、永年にわたって事務局や会計まで引き受けてくださいました。この会は現在は事務局を信州大学人文学部に移し、先生の御意志を継承、発展させております。

なぜこれほどまでにして先生はことばの研究に打ち込んでこられたか。それは一言で申せば、ことばへの愛情であり、別のことばで申しますと、人間に対する深い愛情によるものだと思います。

御訃報をいただいたおり、御子息誠之先生からこんなお話を伺いました。『佐久郡誌（方言篇）』がこのほど完成し、先生は最後までこのお仕事に没頭されたと。程経て誠之先生より御著書が届けられました。長野県南佐久方言の総合的研究書で、佐久方言の特質に始まり、音韻・アクセント、語法・文法の記述へと進みます。そして圧巻は方言語彙の各章で、各語の意味分析、語源等を述べたあと、南佐久７０地点の方言分布に説き及んでいます。そして方言使用の年代差について述べ、南佐久方言の将来の予測をもって本書は終わります。総頁なんと７９３頁（Ａ４）。先生の生涯をしめくくるにふさわしい大著であります。最後の気力を振り絞って原稿をお書きになった御様子が行間から察せられます。このように先生は最後まで現役の研究者でいらっしゃいました。

私は先生の学校教育での御経歴や御業績について、必ずしも深くは存じておりません。これらについては本号所載の関係記事に譲りますが、そこに載らないものに信濃教育会改革に関わるものがあります。先生はこの会の現状を深く憂慮され、平成２年より平成５年にかけて「長野県教育をひらく会」の組織の中枢にあって、信濃教育会のあるべき姿の現実に向け、病の身をおして東奔西走して努力され、その改革に大きな成果をあげたと伺っております。

ゲーテは「人間はいつも生成発展を続ける人（Der Werdende）であるように。完成した人（Der Gewordene）とはならぬように」と申しました。先生はゲーテの

ことばどおり最後まで真実を求め、生成発展の道を歩んで来られました。この3月、永年連れ添ってこられた奥様が逝かれ、そして先生には、幾多のお仕事を終えられたあと、奥様のあとを追うようにしてこの地上を離れられました。私はそこに大変悲しいけれども「美しい生の完結」を見る思いが致します。

先生には、どうぞお疲れを癒された上、奥様と時空を超えた世界でも睦び語らい、そして私どもを見守り、お導きくださいますように。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（ませ・よしお，フェリス女学院大学教授）